

「モザンビーク国ナカラ回廊開発促進支援【有償勘定技術支援】」

(公示日:2015年3月4日/公示番号:150055)について、業務指示書に関する質問と回答は以下のとおりです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	P4 (2)評価対象業務従事者の経験、能力等「コミュニケーション支援」3)語学力、p17 2.「業務量の目途と業務従事者の構成(案)」	p17 2.「業務量の目途と業務従事者の構成(案)」には、「ポルトガル語能力を有する場合は、語学資格等をプロポーサルに添付すること」とあります。その一方、p4 の評価対象となる語学には、ポルトガル語は記載ありません。コミュニケーション支援担当について、ポルトガル語は評価対象となるのでしょうか。	ポルトガル語能力を有する場合、プロポーザル評価表の「ウ) 語学力」としては評価しませんが、「エ) その他学位、資格等」に加点をします。
2	P12 「4. 実施方針及び留意事項 (5) コミュニケーション支援について」、p15 「5. 業務の内容 (6) 第三次現地業務」	「4. 実施方針及び留意事項 (5) コミュニケーション支援について」の中に「コミュニケーションツールの作成においては」とありますが、「5. 業務の内容 (6) 第三次現地業務」の「コミュニケーション活動支援」にコミュニケーションツールの作成が含まれているということでしょうか。 本業務で策定することになる「コミュニケーション戦略」には、さまざまなコミュニケーションツールを使うということが含まれていると想像しますが、全てを、本業務の中で準備してしまうというようなことでもないかと想像しますが、いかがでしょうか。 またコミュニケーションツールを作成するには、現地再委託等が必要となろうかと考えますが、どのように想定しておけばよろしいでしょうか。	コミュニケーションツールの作成は「5.」の「(6) 第三次現地業務」に含まれます。パンフレット、ラジオコマーシャル、住民向け演劇等の広報マテリアルの活用や、ステークホルダー会議のプロトコール等、様々なコミュニケーションツールのうち、本業務で必要性が認められるものについて支援する方針ですので、業務人月および経費削減を考慮しつつ、プロポーザルにて提案してください。 ただし、現地再委託は想定する必要はなく、あくまでカウンターパート機関が主体的に行う業務を支援します。そのため、コミュニケーションツールの準備に係る経費は、C/Pの支援に係る経費のみを計上してください。

3	P13 [5. 業務の内容 (2) 第一次現地業務]	<p>・「①に関連する事業予算及び各実施機関の財務状況」を調べるには、時間と手間がかかりますが、必要に応じて、現地特殊傭人に対応することでよろしいでしょうか。</p>	<p>計上を認めますが、経費削減を考慮した提案をしてください。</p>
4	P14 「5. 業務の内容 (3) 第一次国内作業」	<p>・「5. 業務の内容 (3) 第一次国内作業」以降にある「組織体制」とは、ナカラ回廊開発機構の内部の組織体制ということでしょうか。</p> <p>実際には、ナカラ回廊開発促進には、新組織「ナカラ回廊開発機構」ばかりでなく、経済財務省、GAZEDA、そして PEDEC-Nacala を策定してきたステアリングコミッティやワーキンググループも関わっているようにも思います。</p>	<p>ナカラ回廊開発機構に限らず、関連する各機関について、可能な限りの情報収集をしていただくことを想定しております。</p>

以上